

インターバンクの声（2016年2月24日）

週明けの東京市場で112円台から始まったドル円だが、その後は113円台での取引時間が長くなりつつあったため、さすがに市場にも円買い疲れの兆候も出始めたのかと思っていた。しかし、日経平均株価もなかなか思うように上昇が続かず、原油の供給過剰の解消期待も空しく剥落したとあって依然として懲りもせずにスイス・フランや円買いに向かう参加者が多く、今度は111円台での取引時間が増えてきた。もっとも昨日は、スイス国立銀行（中央銀行）のジョルダン総裁が金融緩和を無限に実施することはできないとの見方を示し、追加利下げに慎重姿勢を取ってくると予想されたのでスイス・フラン買いには根拠もあった。それに対し、日銀の黒田総裁はマイナス金利幅の拡大に言及しているにも関わらず円買い圧力が弱まらない。明らかに市場全体に過剰な円高バイアスがかかっているし、円買いに向かっているのも投機筋が中心だ。極端ではないものの通貨先物市場などの円買いポジションも膨らんでいる。昨日の東京時間の昼過ぎに50銭近く突然ドル買いになったような動きを見れば、市場が大きめのドルの反発を警戒しているのも分かった。まだ円の買い持ちポジション維持に問題はなさそうだが、そろそろ一気に手仕舞うような動きが出る可能性にも注意しておくべきだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。